

映画

地球交響曲

第九番

GAIA SYMPHONY NO.9

2022
9/17
(土)

鈴木慶江 ミニ・コンサート

横須賀上映
第32回
有料上映会

2022年 **9月17日(土)** 13:00 ~ (開場 12:30)

横須賀市 文化会館 大ホール 京急横須賀中央駅下車 徒歩 10分
横須賀市深田台 50 ☎046-823-2950

チケット料金 2,900円 (前売り 2,700円) 全席自由席



16ミリ試写室



鈴木慶江 すずきのりえ

〈演奏曲目〉

- アヴェ・マリア (グノー)
- オペラ「ジャンスキッキ」より
～私のお父さん～ (プッチーニ)
- オペラ「ロミオとジュリエット」より
～私は夢に生きたい～ (グノー)
- アメイジング・グレイス 他

※演目は変更することがあります。予めご了承ください。



チケット販売： 横須賀市文化会館 ☎046-823-2951
品川文化堂 (大滝町) ☎046-823-1848
井出新聞店 (衣笠栄町) ☎046-851-0235
アナザワフォト (追浜駅前) ☎046-865-9963

新型コロナウイルス
感染防止
ご協力をお願い

体調の優れない方は参加を控えて下さい
チケット半券に氏名と連絡先電話番号を書いて下さい
マスクの着用をお願いします

共催：横須賀市教育委員会
後援：横須賀市 (公財)横須賀市生涯学習財団 (福)横須賀市社会福祉協議会

主催：16ミリ試写室 <https://y16miri.com>
問合せ：☎090-2901-0862 (松澤)

すべての生命は音から生まれ、音に還ってゆく

なぜ、私たち人間は、これほどまでに音楽を作り、音楽に耳を傾けずにはられないのか。30年前、この映画に「交響曲」と名をつけたのは、あらゆる楽器がそれぞれ独自の音を奏でながらシンフォニーを奏でるように、生命体である地球のシステムもまた、ともに美しく壮大な調和の音楽を創造する、ひとつの生命のシンフォニーを奏でているようなものだからだ。

今、私たち人間は、明らかに調和を乱す不協和音を奏でている。調和を求める宇宙の「大いなる意志」によって私たちそのものは抹消されてしまうのか、それとも新たな調和の音楽を創造することができるのか、その選択は私たち自身に委ねられている。

今こそ、私たちは耳には聴こえない“音楽”を聴く“想像力”を取り戻さなくてはならない時だと感じるのだ。

映画監督 **龍川仁**

地球交響曲 GAIA SYMPHONY No.9 —第九番—



小林研一郎 / 指揮者

KOBAYASHI Ken-ichiro

「21世紀の今、ベートーヴェンの『第九』を振ってコバケンを超える指揮者はいない」という音楽関係者の声をよく聴く。奇しくも私と同じ1940年4月の、同年同月生まれである。私と小林研一郎が出会うということは偶然ではない。はっきり言って言葉では説明のできない同じ事柄がお互いにあり、地球交響曲的な何か、人間にとって大切なこと、今の時代にやらなくてはならないことがあるのだと確信している。コバケンの仕事を映画にするとかそういうことではない、この時代までの私と彼とがつながり合って生まれる「第九」を、私のいのちの最後として送りたいのだ。



本庶 佑

医学博士・分子生物学者・ノーベル生理学医学賞受賞者 HONJO Tasuku

「地球交響曲」の構想に大きな勇気を与えてくれた「多様なものが多様なままに共に生きる、それはいのちの摂理である」と語ってくれたのは、本庶佑である。40年前、当時すでに抗体の遺伝子研究で難病解明に大きく貢献し、世界的な評価を得ていた。



すべての生命はひとつながりのものであり、ともに調和しながら永遠に生きている。宇宙誕生の瞬間に生まれた粒子のひとつさえ、宇宙の無数の星々の誕生と死に関わりながらいま、この私の身体の中にあるかもしれない。その記憶を呼び覚ますとき、蘇ってくる懐かしさはどこに繋がっているのか。

遺伝子をつみとめることで生まれた新たな生命像は人間の心のありようにも変化をもたらすのか、いのちとはなにか、その永遠の問いを科学の目から語ってくれる。

スティーブン・ミズン / 認知考古学者

Stephen MITHEN

私たち日本人は、「ネアンデルタール人」にどんなイメージを持っているだろうか。

多くの人々は、現生人類(ホモサピエンス)が登場する遙か以前にこの地球に生きていた類人猿に近い存在だと思っているかもしれない。ところが、最近のめざましい考古学の新発見によって、ネアンデルタール人は、私たちと同程度の大きな脳と発達した喉を持ち、「言葉」ではないが、「歌声」によって互いに高度なコミュニケーションをしていたのではないかという学説が生まれてきた。つまり、ネアンデルタール人の大きな脳は、言語によるコミュニケーションではなく音楽的コミュニケーションに使われていたというのだ。この学説を提唱したのが認知考古学者スティーブン・ミズンである。彼は、人類の心の始まりを知る鍵は、ネアンデルタール人の心を知ることに語る。



映画では、かねてより縄文文化の自然観、生命観に興味を持っていたスティーブン・ミズンとともに、アイヌや琉球の文化に触れながら、音によって紡がれた世界に触れる旅をすることとなった。

遠い祖先とのつながり、見えない存在とのつながりを思い出す旅は私たちは何を思い出させてくれるのだろうか。

ベートーヴェン交響曲第九番 二短調 作品125「合唱」

Beethoven: Symphony No. 9, Op. 125

楽聖ベートーヴェンは、生涯に9本の「交響曲」を作曲し、「第九」を作り終えたあと、この世を去った。ベートーヴェンはこの「第九」で初めて楽器だけではなく人間の歌声「合唱」を入れた。



当時、すでに聴覚を失っていたベートーヴェンの耳に、人間の歌声はどのように響いていたのだろうか。

地球交響曲第九番では、「コバケンとその仲間たちオーケストラ」と、この映画の収録のために結成された「ガイアシンフォニー第九合唱団」が、年木恒例の「第九演奏会」に向けて、小林研一郎の気遣いと情熱で仕上がってゆくリハーサルのプロセスを描いている。その「第九」の演奏は14分で綴っている。

© 龍村仁事務所

オペラ歌手 鈴木慶江 すずきのりえ

クラシックとポップスの境界線を超越し、進化するトップ・オペラ・シンガー。

2002年「NHK紅白歌合戦」に紅組の1人として出演、温かな歌声、華やかな舞台姿を日本中に印象づけ、オペラブームの火付け役となる。

東京藝術大学声楽科、同大学院オペラ科修了後、国内の数々のコンクールで優勝後、ミラノへ留学、「第31回ベリニ国際音楽コンクール」等、数々の国際コンクールで最高位を受賞する。

多くのオペラやリサイタルに出演する他、「ニュースステーション」「あさイチ」等、報道番組を含む多くのテレビ、ラジオに出演、「琥珀エビス」「JAL」等多くのCMソングを歌う一方、panasonic社の一眼デジタルカメラや日本海フェリーのCMに本人出演、2016年10月には鈴鹿で行われたF1グランプリ決勝で、国歌を独唱、世界170カ国に生中継され話題を集める。

『子どもの為の教育プログラム』プロジェクトや、社会貢献活動の他、東日本大震災復興支援のためのチャリティ公演や現地のボランティア活動を続けており、その公演には上皇陛下ご夫妻もご臨席されるなど、多方面にわたる活動が目撃されている。

最新アルバム『OPERATIC FANTASY』を含む多くのアルバムでクラシックチャート1位を記録している。

シャンパーニュ騎士団シュバリ工叙任。関西国際学園特別講師及び顧問。神奈川県横須賀市出身。

映画『地球交響曲』では、第五番、第六番、第七番、第八番にて数々の楽曲が使われている。

『16ミリ試写室』は1977年に発足。「どこでも素敵な映画館」を合言葉に、県や市の視聴覚ライブラリー所有の16ミリフィルムや映写機を活用し、視聴覚教育活動を続ける女性のNPO団体です。横須賀市内の図書館やコミセンなどの社会教育施設、老人ホーム、障がい者施設、地域の集会所などで年間約100回の映画会を開催しています。さらに、「心に響くメッセージを廉価で届ける」を目的に、ドキュメンタリー映画を中心に有料上映会も開催しています。2013年春 地域交流支援活動奉仕団体として緑綬褒章を受章。

